

No. 312【2018年6月29日配信】

林業遺産『我が国初の森林鉄道「津軽森林鉄道」遺構群及び関係資料群』(担当:児玉)

こんにちは。文化財課の児玉です。先月、5月29日に青森市森林博物館で実物展示をしている「津軽森林鉄道の客車、運材台車、トンネル名称板」の3点を含む『我が国初の森林鉄道「津軽森林鉄道」遺構群及び関係資料群』が、一般社団法人日本森林学会(以下、日本森林学会)による「林業遺産」として認定されました。

「林業遺産」は、日本森林学会が学会100周年を契機として、日本各地の林業発展の歴史を将来にわたって記憶・記録していくため、平成25年度(2013)から開始したもので、今回の認定で36件となりました。なお、東北では、津軽森林鉄道遺構群等が初めての認定です。

今回の認定は、青森市や五所川原市、中泊町、外ヶ浜町、蓬田村などに所在する津軽森林鉄道に関する資料が対象となっており、相ノ股隧道、ヒバ製及び鋼製橋梁等の主要遺構、幹部視察用客車あすなろ号、協三工業4.8t内燃機関車、モノコック鋼製運材台車、このほか関係営林署別旧林道台帳、津軽森林鉄道関連地図、実測図面類、写真類などから構成されています。

今回の認定にあたっては、「津軽森林鉄道」が明治42年(1909)に我が国最初の森林鉄道として竣工し、青森市沖館の貯木場を起点に路線の全長は本線だけで67kmに及び、日本で建設された全森林鉄道の中で最長を誇り、現在も豊富に遺構が確認されるとともに機関車や客車、図面・写真なども保存されていることから、我が国の林業発展の歴史を示し、将来にわたって記憶・記録していくべき価値のある遺産として認められたものと、大変喜ばしく誇りに思います。

森林博物館は、今回の林業遺産の認定を受けた客車、運材台車がある展示棟のほか、津軽森林鉄道をテーマとした展示室がありますので、これを機会にご覧いただければ幸いです。



幹部視察用客車あすなろ号



モノコック鋼製運材台車



ろくろぐずいどうへんがく
六郎隧道扁額(トンネル名称板)